

鉾田市まちづくり  
推進会議広報

# I P P O

～ 一歩 ～



令和4年6月13日発行

第19号

巻頭イラスト： 「何れ菖蒲か杜若」

菖蒲（あやめ）も杜若（かきつばた）もよく似た美しい花で、区別するのが難しいですね。美女にたとえられ、優劣がつけ難く選択に迷うという意味のことわざができました。さて、どれがアヤメで、どれがカキツバタかわかりますか？

答え（左）カキツバタ （中）アヤメ （右）ハナショウブ

「いきものだより（2022年5月号）」より

# 「いきものだより」のあゆみ

## ～おかげさまでだいたい 20 号～

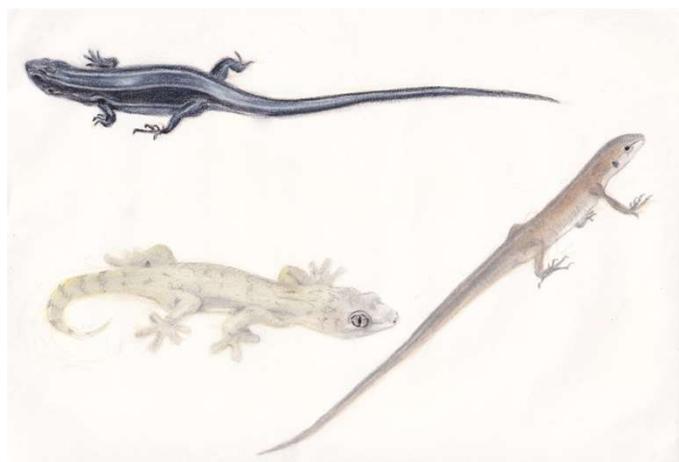
自然環境部会 藤井歩

こんにちは。自然環境部会の藤井と申します。頼まれてもないのに「いきものだより」という謎の資料を作って、自然環境部会の観察会で、月に一度ほど配布しています。今回 IPPO で「いきものだより」について記事を依頼されたので、僭越ながら書かせていただきます。

「いきものだより」とは、表向きは皆さんに生きもののもっと知ってもらおうと、絵入りで季節の生きものを解説した A4 サイズの資料です。生きものに詳しくない人にも分かるように、できるだけやさしい説明を心がけています。とはいうものの、「いきものだより」を作ろうと思った本当の理由は自分のため、生きもの勉強と絵の練習をしたかったからです。気力がないときは、生きものやハイキング情報の写真を並べて印刷してお茶を濁しています。

今回記事を書くということで、過去に配布した資料をひっぱり出してきました。第 1 号は 2019 年 5 月に発行されていますが、「いきものだより」というタイトルはついていませんでした。2 号からなぜかいきなりタイトルがついています。2 号までは 1 枚の紙の表裏にいろいろな記事を詰め込んだ学級新聞的なつくりです。3 号からは忘れっぽい私のことですから、いずれ号数が分からなくなるだろうと見越して年月日だけになっています。その後は写真を並べたものの印刷ミスばかりが残されていて、はっきりしたことが分かりません。2021 年 4 月以降はきちんと記録が残っています。行方不明のものを除けば、だいたい 20 号発行していると思います。

こうして振り返ってみると、良く言えば試行錯誤の連続、悪く言えば行き当たりばったりで我ながらあきれてしまいます。続けているうちにだんだんと文章と絵が洗練されてきていると思いたいのですが、いかがでしょうか？



2021 年 7 月号 爬虫類



2021 年 10 月号 ツクバトリカブト

それでは、手描き版「いきものだより」のつくり方をご紹介します。絵はなるべく実物を見て描きたいのですが、最近は怠けてスマートフォンで撮影した写真を参考に描いていました。(最新号で実際の植物と写真の違いが大きすぎて、正確さを欠いていたので、慌てて修正しました。やはり実物を見て描かないとダメだと今更ながら思いました。) 最初に画用紙に鉛筆で下書



2021年11月号 サザンカ

きをしてから、ペンで輪郭線を描きます。それから消しゴムで鉛筆の線を消して、色鉛筆型のパステルで着色します。

パステルは色を塗ってから指でこすってぼかすことができます。線からはみ出したら練り消しゴムで消すこともできます。色を混ぜることはできませんが、重ね塗りすることで違った色になります。水彩画のように水を用意しなくてもいいし、失敗してもぎゅうぎゅう濃く塗らなければやり直しがききますので、ずぼらな私にはぴったりの画材です。一時期は輪郭線を入れずにパステルだけで描いていましたが、アートっぽくするのではなく、分かりやすさを大事にしようと、輪郭線を入れるようにしました。

絵が描けたら、パステルがこすれて色が落ちないように、定着材を吹き付けます。乾いたら、コピーして説明文を入れていきます。これでよし、と思えたらペンで清書して完成です。これを原本として配布分をコピーします。残念なことに、コピーを重ねるごとに色が悪くなってしまっているので、皆さんに原画の色の綺麗さは伝わっていません。今後、どうすれば綺麗な色のまま印刷できるのか考えてみます。

ここまでお読みくださりありがとうございました。「いきものだより」は、自然観察会の様子とともに、まちづくり推進会議のホームページに載せています。また、ご厚意で北浦湖畔のエコ・ハウス内にも貼っていただいています。興味のある方はのぞいてみてください。

皆さんが、身の回りの生きものの観察を楽しんでいただければ幸いです。



2021年1月号 縁起の良い植物



2021年11月号 紅葉



2022年4月号 アズマヒキガエル

※配布している「いきものだより」はこれら原画に説明文を加えています。

# マスクを外す日

## “ Beyond the Corona ”

野村正満

にわかに世の中が騒ぎ出したのは2020年1月末から2月始めでした。横浜港から出航したクルーズ船が港に戻ったら、4000人近い乗客と船員が一步たりとも船から降りることはまかりならぬ、と留め置きされることになりました。それからわずか1カ月後には、総理大臣が全国一斉に学校を休校にすと言い渡し、休校期間は最長で3カ月以上にもおよびました。その犯人は新型コロナウイルスという病原体でした。

当初は誰もが恐怖を覚えました。私も例外ではありません。マスクは人々の恐怖心を煽るように、コロナの恐ろしさを四六時中喧伝しました。驚くほどの勢いで感染は拡大し、未知なるウイルスが自分にも忍び寄っているのでは、と誰もが考えるのも無理ありません。役所も口うるさいほどに、手指消毒、ソーシャルディスタンス、不要不急の外出自粛、莫大な予算を投じて役に立ちそうもない小さな布マスクを全国民に配付しました。

しかし、間もなく未知なるウイルスも、細部はともかく全体像がわかってきました。感染力は絶大だが、少なくとも日本人は欧米人とは桁違いに感染率が低いこと。SARSやMARS、エボラ出血熱のように感染したら何割という高い確率で死ぬことはなく、コロナの死亡率は1万人が感染しても死ぬのは数人であって、季節性インフルエンザと同等かそれより少し高い程度であることなどです。それでも専門家やマスクは、新たな変異株が出現した、コロナの後遺症はひどい、などことさら人々に恐ろしさを植え付けることを目的としたような姿勢を崩しませんでした。どんな病気でも、ある程度の症状が出れば後遺障害の要素は否定できません。そのために治療現場では常に臨床医たちが合併症などのコントロールに心血を注いでいるのであって、コロナだ

けに特異な後遺症があるわけではないのです。

感染症(流行り病)を歴史から学ぶことができます。これまでに地球規模での感染症のまん延(パンデミック)が何度も襲っています。天然痘、ペスト、コレラ、スペイン風邪など人間から人間へと伝染して流行する病気により、何千万人もの死者を出したことが歴史に刻まれています。いずれも細菌やウイルスが体内に入り異常に増殖して、生命を奪うのですが、それがいつの間にか何事もなかったように治まってしまうのです。その病原体に対する薬やワクチンなどが皆無の時代であったにもかかわらず、どんなに多くの感染者を出しても、人類を絶滅させるような事態にはなっていません。それを人類存亡の危機かのように、これでもかと恐怖心を煽って、市民の行動に過度と思えるほどの規制や制限を加えた施策は、どこまで効果があったのでしょうか。

私が残念に思えてならないのは、みんなが築き上げてきた文化がことごとく制限されたことでした。音楽家の友人が自嘲気味に「私たちの仕事は不要不急ですから」と語った言葉はショックでした。真っ先に不要不急だとして槍玉にあげられたのが音楽や演劇といった人々の心の中を豊かにさせてくれる分野でした。もっと身近なところでは、町のお祭りやマラソン大会などのイベントです。こうした爪痕の後遺症の方がよほど心配でなりません。伝統的な庶民の祭りなどは、何世代にも渡って受け継がれてきたものです。わずか数年の断絶が、文化の伝承に大きな影響を与えるであろうことは容易に想像できます。そして、専門家によるアドバイスをうけて実施してきた行政の感染対策は、どこまで成果をあげて、適正であったのかという疑問が浮かび上がってきます。

つい先日、緊急事態宣言下の東京で営業時間の短縮要請に応じなかった外食企業が、東京都から特措法に基づく時短命令を受けたのは不当だとして訴えた事件で、東京地裁は「命令は違法」とする判決を下しました。これからは、コロナで亡くなった遺族などをはじめとして、その取り扱いをめぐる行政を相手に不服を訴える訴訟などがいくつもあるように思えてきます。いずれにせよ、いつもなら当たり前の行動や活動が、無謀だとか、時には悪だとして多くのことが批判され制限されました。

昨年度の第22期ほこた塾が掲げたテーマは“Beyond the Corona”《コロナの向こう側に見えるもの》でした。コロナに制約させられる生活をどこまで続けていくのか、いつになったら、自由にみんなで楽しく語り合ったり踊ったりできるのだろうか、そんな想いを込めたテーマ設定でした。英語のBeyond(ビヨンド)には「ある一定の基準や範囲を越えたさらなるもっと先に」というようなニュアンスがあります。ハワイアンに“Beyond the Reef”という名曲がありますが、この日本語タイトルは《珊瑚礁の彼方に》です。「彼方に」は素晴らしい邦訳だと思います。今年5月半ばに造血・免疫細胞療法学会があり参加しましたが、そのスローガンが“Transplant, Cell Therapy, and Beyond”で、邦題は《細胞療法、その先へ》でした。私は英語を駆使する人物ではありませんが、“Beyond”にはそうした未来への希望を抱かせるようなキラキラとした意味がある単語なのです。

話がそれました。日本人のほとんどは外出をするとき、マスクをします。そして日に何度も手指の消毒をします。こんな生活をいつまで続けるのでしょうか。今年の小学3年生以下はマスクをしないで学校に行ったことがありません。マスクをするのが当たり前で、マスクをしないことの方に違和感を覚える子が大半のようです。でも、マスクをしていると顔の判別もそうですが、相手の表情を感じるできません。赤ちゃんも含めて子どもたちは、相手の視線や表情をみて感情を判断し、コミュニケーション能力を培っていきます。それが阻害され、人付き合いができない子どもが増えたとすれば、それこそコロナの大きな後遺症です。

海外では、マスクの着用義務を撤廃しているところが多くなってきました。日本人はいつまでみんなでマスクをしているのでしょうか。先日はリモートの会合で、マスクをしている人がいて「ん？」と思いました。いつになったらマスクをしなくても、まわりから白い目で見られることがなくなるのでしょうか。ウイルスは弱毒化し、致死率は下がっています。2年前とは状況は大きく変わっています。ワクチンもあります。感染しても、ウイルスの増殖を抑える飲み薬もあります。新薬も次々と出てきています。

もうそろそろ本気になって、人間が人間らしい営みを取り戻して、当たり前の生活を送るときではないでしょうか。みんなでマスクを外して通りを歩く時ではないでしょうか。

その日こそ“Beyond the Corona”です。

(野村正満・放送作家)

ほこた塾 第22期 塾生募集

気がついたら、雨が上がっていた  
歩道の水たまりが、きらりと光ったら  
青空が広がり、陽射しが眩しい  
木立の上にくっきり、虹が架かっている  
扉を開いて、外に飛び出そう  
心地良い風が吹いている

beyond the corona  
コロナの向こう側に見えるもの

★今期も多彩な講師陣を迎えます  
詳しい講座内容は裏面をご参照ください。

ほこた塾・塾生募集要項

- 開講期間 ●2021年12月～2022年3月
- 講座回数 ●基本講座5回、特別講座2回  
※基本講座は原則として、播磨事務所会議室にて平日の夜間に、特別講座は週末に開催します。
- 募集人員 ●50名 どなたでも塾生になれます(先着順)
- 入塾費用 ●資料代等として、2,000円  
鈴田市まちづくり推進会議年会費1,000円を含みます。  
単回で聴講希望の方は各回500円です
- 入塾ご希望の方 ●  
入塾申込みは裏面の申込書にご記入の上、  
FAXか電話をお願いします。

申込締切：2021年12月10日

【問合せ先】 鈴田市まちづくり推進課  
電話：0291-36-7154 FAX番号：0291-32-4622 担当：090-8857-9171 (田口)  
【主催】 鈴田市まちづくり推進会議

“Beyond the Corona” をメインテーマとした  
第22期ほこた塾

# さつまいものはなし

飯塚克則

突然ですが、さつまいもの花を見たことがありますか？

答えは、生まれ故郷の熱帯地域や沖縄などの亜熱帯地域においては自然に開花しますが、日本国内ではめったに開花しません。

開花しないとどうなるか？ さつまいもの種を採取することができないのです。

種がないとどうなるか？ 紅はるかななどの新品種を開発することができないのです。

ではどうやって、さつまいもの花を開花させるのか疑問ですね。

さすが、日本人の先輩方はすごい。

キダチアサガオの茎に、さつまいもの茎を接木して開花させ、種を採取する方法を考えだしました。

そしていろいろな品種の交配採取を繰り返し、毎年数多くのさつまいもを誕生させました。

試験栽培の結果、すぐれた品種のさつまいものみが農林水産省にて品種登録されます。

みなさんご存知の紅はるかは、平成8年に交配に成功し、平成19年に登録命名されました。

因みに、母は九州121号、父は春こがねの交配で誕生しています。

これからも、どんどん美味しくなるさつまいもたくさん食べてくださいね。



さつまいもの花

サツマイモは何科の植物でしょうか？

答えは、ひるがお科です。確かに花や葉の形がヒルガオに似ていますね。キダチアサガオとの相性も良いわけです。



# 各部会より

## 人材育成部会

第22期ほこた塾塾長 雑賀美丘

### ★第22期ほこた塾入塾式及び第1回基本講座★

令和3年12月22日、コロナ禍でなかなか先が見えない中、“beyond the corona～コロナの向こう側に見えるもの”をテーマに、第22期「ほこた塾」をスタートしました。

入塾式には銚田市を代表して安原教育長がご臨席くださり、祝辞をいただきました。

その後、行われた第1回基本講座では、茨城県生涯学習・社会教育研究会会長の長谷川幸介氏が《4つの免疫と幸せネットワーク》というテーマで講演されました。独特の切り口での新型コロナウイルスについての解説や、「体の免疫」だけでなく「心の免疫」「社会の免疫」「地球の免疫」を高める必要があるとの説明に、約30人の受講生が熱心に耳を傾けました。



### ★第2回基本講座★

令和4年1月14日(金) 《コロナ医療体制にもの申す～移植数日本一血液内科医の言い分》をテーマに、虎の門病院副院長で血液内科部長の谷口修一氏が講演されました。

急性白血病や悪性リンパ腫など血液疾患の特性や治療によって、免疫抑制状態にあることから、コロナウイルスに感染しやすく重篤化しやすい傾向にある患者を、どのように感染から守るよう努めたか、また、2020年2月のダイヤモンドプリンセス号の患者の受け入れから始まり、病棟を改修してコロナ患者を安全に受け入れることと、通常の医療の安全な継続、医療者の安

全の確保に努めて来たかなどを話していただきました。

さまざまな経緯があった中で、去年の4月から全ての感染症入院患者を救命できたということは病院スタッフのみなさんの努力の成果だと強く感じました。

谷口氏は「この第6波がコロナ終焉へのゴングであることを願う」と締め括りました。



### ★第1回特別講座★

《銚田の自然財産～北浦周辺の自然環境を見つめてきて》と題して、1月30日に銚田市の環境学習施設エコ・ハウスにおいて特別講座を行いました。

講師は、長年に渡って野鳥の保護やまちづくりに尽力してこられた、野鳥研究家で写真家の川又利彦氏にお願いしました。



エコ・ハウスに隣接した調整池をビオトープとして活用する試みについて、北浦北部地区を狩猟可能な“乱場”から鳥獣保護区に指定されるまでに至った経緯のほか、北浦北部の注目すべき鳥類の現状について説明がありました。



- ①カンムリカイツブリ…関東で北浦北部が唯一の繁殖地→昨年は繁殖無し
  - ②コジュリン…絶滅危惧種→絶滅
  - ③オオセッカ…絶滅危惧種→絶滅
- という切実な状況には危機感を覚えました。



その他、現在の北浦北部の堤防が自然のものではなく、大工事によって作られた記録や、葦原の不用意な伐採による絶滅危惧種のヨシゴイへの被害などについても話がありました。

座学の後には屋外に出て、実際にエコ・ハウス周辺の観察を行いました。

### ★第3回基本講座★

《老舗の宿と汚染の大地、震災・語り部・地域づくり》と題して、2月10日、福島県いわき湯本温泉で300年以上続く老舗旅館「古滝屋」の第16代当主の里見喜生氏に講演していただきました。

2011年の震災後には「古滝屋」を支援物資の受け渡し場所やボランティアの方たちの宿として提供したり、ご自身でも避難所を回ってボランティアをするなど、地域の復興のために尽力されました。



そのほかにも NPO 法人を立ち上げ、被災地のスタディツアーを企画し語り部として活動されるほか、震災被害を伝える考証館の設立など、地震、津波、原子力災害と複合的な被害を受けたふるさとの為に、さまざまな形で活動し続けています。

東日本大震災後 10 年を超えた今も被災地ではまだまだ傷跡が残っている一方で、新たなまちづくりに取り組む力が生まれていることも知り、希望を感じることができた講座となりました。



### ★第4回基本講座★

《ライフセービング 30 年—銚田のビーチを見つめて》と題して、2月25日に流通経済大学スポーツ健康科学部教授の荒井宏和氏に講演していただきました。

1992年に国立大学として初めて筑波大学にライフセービング部を創部し、翌年、銚田市で大竹サーフライフセービングクラブを設立、30年もの長きにわたり、ライフセービングの活動を続けて来られた内容を、立ち上げのご苦労からお話いただきました。

現在は130人のさまざまな職種の社会人や大学生、高校生の会員が、大竹海水浴場の安全を守るのみならず、海外に遠征してライフセービング技術を磨き、競技においても好成績を上げているメンバーもいることを知り、希望を感じると共に大変誇りに思いました。



## ☆第2回特別講座☆

鹿行文化研究会の高埜栄治氏を講師に迎え、3月6日、第2回の特別講座を行いました。

《常陸国風土記と和名類聚抄の世界を巡る》というテーマに沿って、鉾田市の公用バスで丸一日をかけて、市内の遺跡や古墳群を見学しました。



『常陸国風土記』には「白鳥の里」と名付けられた謂れや、「当麻郷」(現在の塔ヶ崎、坂戸、当間など)についての記述が遺されており、100年後に編纂されたと言われる『和名類聚抄』にも、現在の鉾田南小学校の敷地となっている場所が扇田遺跡であったことが記されているなど、日常の暮らしのすぐ隣に、貴重な文化遺産が遺されていることを改めて知ることができました。



歴史に思いを馳せる有意義な時間となりました。

## ★第5回基本講座及び卒塾式★

《鉾田にもやっと子ども食堂が一開業奮闘記と今後の課題》と題して、3月24日、NPO キッズ王国理事長の野村正満氏を講師に第5回基本講座を行いました。

近隣の市町村の中で唯一子ども食堂の無かった鉾田市において、ようやく子ども食堂「タベルナ」を開業するに至った経緯を話していただきました。

核家族化が進み、孤食が日常的になってしまった現代において、子どもたちに豊かな食を提供するだけでなく、遊んだり学んだりする居場所づくりも子ども食堂の重要な役割となっています。

社会福祉協議会の共催を得て、鉾田市と教育委員

会の後援も受けていますが、継続的な活動のためには、さらなる協力者を増やしていくことが重要で、サポーターを募り、認定 NPO 法人化を目指していくとの決意が示され終了となりました。



講座に続いて、卒塾式を行いました。入塾式同様、安原教育長が出席していただき、祝辞をいただきました。塾生に修了証を授与し、第22期ほこた塾の全てのプログラムを閉じました。

## 仲間づくり部会

部会長 深作和則

令和3年度私たち仲間づくり部会の活動としましては、婚活事業を4回開催することができました。コロナ禍ということ踏まえ、密にならず感染防止に努めながらの企画内容での婚活ということで、6月と10月にいこいの村瀬沼でグラウンドゴルフ婚活を開催しました。12月には蔓延防止解除中には、水戸市内の飲食店にて感染防止に配慮しながらの開催、3月には再度いこいの村瀬沼にてのグラウンドゴルフ婚活を開催しました。

4回の開催とも多くの人数は集まれないため、10対10程度のミニ婚活としまして、延べ男性参加者39名、女性参加者34名で7組のカップルが誕生し、参加賞、カップル賞には鉾田産のメロン、焼き芋、イチゴなどを使い、ご参加いただいた皆様にもたいへん好評でした。

また、昨年度からのSNSを使っただけのPRと申し込みについてはたいへん好評で、申し込み数の約7割の方にご利用いただいている状況です。今後もこちらのサイトの内容等の充実と併せ、出会いサポートセンターなど他の機関や団体と連携してなるべく多くの方々に出会いの場の提供と、素敵なお相手と巡り合ってもらえるよう工夫を重ねていきたいと思っております。

いこいの村澗沼 グラウンドゴルフ婚活



水戸市飲食店での婚活



## 自然環境部会

部会長 大木繁夫

令和3年度も新型コロナウイルス対策のため、活動を休止しなければならない期間がありましたが、自然観察会を10回、特定外来生物駆除を含む北浦北部の清掃活動を3回実施することができました。

北浦北部におけるカムリカイツブリの繁殖については厳しい状況が続いています。2018年まで10年連続で計35羽の雛が誕生したのですが、2019年は0羽、2020年は1羽(ただし幼鳥まで育てず)、2021年は0羽という結果でした。3年連続で子孫が残らなかったのは、これまでに無い危機的な状況といえます。

さらに稀少な観察ポイントとして親しまれてきた、安塚公園脇芦原のヨシゴイ【準絶滅危惧】のサブコロニーが、2021年に忽然と姿を消してしまいました。

残念なことです。年々開発の手が入り、湿地が乾燥化し、芦原がセイタカアワダチソウ等の繁茂する草原へと変化、貴重な生態系が失われ続けています。

しかし、諦めるわけにはいきません。まだまだ北浦北部の自然環境は守るべき価値を残しています。2022年4月、北浦北部で越冬するオオセッカ【絶滅危惧Ⅱ類】が健在であることを確認しました。銚田市環境学習

施設エコ・ハウス後ろの調整池(ビオトープ)周辺には、ヒクイナ【準絶滅危惧】が住み着いています。また、巴川下流域の芦原は、ホオアカの貴重な繁殖地となっています。

## 活動のハイライト

### ① 生態系を守れ！～北浦北部の特定外来生物の駆除～(2021年6月13日)

茨城県県民生活環境部自然環境課 生物多様性センターの和田様にご指導いただき、北浦湖岸や周辺の不耕作田において特定外来生物(オオフサモ、アレチウリ)の駆除を行いました。参加者8名でした。



北浦北部での特定外来生物駆除の取り組みは、今回で3年目となりました。これまでの活動により、エコ・ハウス周辺のオオフサモの繁殖を効果的に抑えることができている、今回の駆除作業も容易に行うことができました。

特定外来生物として植物では他にオオキンケイギクが有名です。鉾田でも幹線道路沿いで目に付くようになり、故意ではないにせよ、育てていらつやるようなお宅や公的施設が散見されます。

『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律』によると、販売・頒布目的での飼養などに対して、個人には3年以下の懲役や300万円以下の罰金、法人には1億円以下の罰金が科せられるとあります。販売・頒布以外の目的での飼養などであっても、個人には1年以下の懲役や100万円以下の罰金、法人には5,000万円以下の罰金が科せられるのです。

この事実を広くお伝えできないものか、なるべく多くの方々に駆除にご協力いただけないものかと思っている所です。

## ② 鉾田一高附属中学校第一学年 自然観察会 (2021年11月1日)

エコ・ハウス2階にて鉾田の自然講座(講師 川又利彦氏)、並びにエコ・ハウス周辺の自然観察を行いました。参加者は総勢52名(生徒38名、教職員3名、スタッフ11名)でした。カンムリカイツブリ、カワセミ、ミサゴ【準絶滅危惧】などが現れ、一同を楽しませてくれました。鉾田の自然の豊かさの一端を体験できたのではないかと思います。



中学生の皆さんと、このような自然観察会を行えたことは大変意義深いことです。自然環境について考え

て下されば、ゴミを捨てたり、貴重な自然を破壊したりする大人にはならないことでしょう。将来、環境行政に携わる人や自然科学の研究者になる人が出たら嬉しいことです。

## 最近の野鳥写真より

自然環境部会員による野鳥写真を紹介します。最近のハイライトは、2021年11月に稀な旅鳥であるソリハシセイタカシギが茨城県内を通過したことです。大変めずらしいです。また、2021年3月に数少ない旅鳥コホオアカが近隣の自然公園で確認されたことも特筆に値します。



カワセミ 幼鳥♂  
(2021年10月23日、北浦北部、撮影/大木)



ヒクイナ【準絶滅危惧】  
(2020年8月23日、北浦北部、撮影/大木)



越冬ツバメ【稀少】  
(2022年1月12日、北浦北部、撮影/小沼)



コホウアカ【稀少】  
(2021年3月24日、行方市、撮影/小沼)



ソリハシセイタカシギ【稀少】  
(2021年11月23日、小美玉市、撮影/小沼)

自然環境部会では、北浦北部とその周辺の絶滅危惧種や希少種の状況観察を継続的に行い、地球温暖化や開発による生態系への影響の把握に努めています。

## IPPO 発行によせて

銚田市まちづくり推進会議会長  
吉田俊郎

3年目を迎えたコロナ禍にもめげず各部会が熱意と創意工夫により活動の休止を最低限におさえ、今日まで継続したことに敬意を表します。

自然環境部会による定期的な観察会そして環境美化清掃活動、特定外来生物の駆除等、大変ご苦労様でした。銚田一高附属中学一年生を迎えての自然観察会は部会の新たな展開を予感させてくれました。

地道に10年以上も婚活サポート事業を継続している仲間づくり部会。20組弱の結婚に至るカップルを誕生させてくれました。参加者目線での企画運営、献身的なスタッフの努力の賜物と思われま

物理的な会場等の制約がある中での第22期ほこた塾を開催した人材育成部会。テーマそして内容ともタイムリーで魅力あふれる講座でした。

個性豊かな銚田市まちづくり推進会議会員各人がそれぞれの得意分野を持ち寄り切磋琢磨することにより、想定を超えた別次元の展開にワクワクさせられた一人です。理屈を超えたふしぎな縁(えにし)を感じざるを得ません。

やっと発行にこぎつけたメンバーの想いのこもったIPPO～一歩～。市民も含めた一人でも多くの方々の眼にとまっていただければと思っ

## 編集後記

令和3年度は広報部会がなくなり、運営委員会主導での初めての広報誌IPPOづくりとなりました。

当初、メンバーの皆さんは、それぞれ大変ご多忙な方ばかりで、執筆の依頼もなかなか予定通りには進まず、IPPO19号の発行ができるかどうか不安な時期もありましたが、再度のお願いで原稿も集まり、無事発行することができました。

内容も各執筆者の得意分野と日頃の熱心な活動が凝縮された非常に充実したものになっていると思います。

どうぞお読みいただいた際には、感想等をお寄せ頂ければ幸いに存じます。

(運営委員長 田口裕之)

広報部会が廃止され、IPPOの編集から足を洗えるかと思いきや、またもや編集をやらされています。今回、小生の提案した記事案「facebook ランキング」、「今年

の天文現象」、「俳句の中の野鳥」は企画段階で全てボツになってしまいました。運営委員会でのIPPO作成は、なかなか厳しいです。

また、誌面の都合で掲載できなかった記事があります。それは、「銚田の七不思議 その1 ～なぜ銚田は寒いのか?～」です。連載を考えているのですが、実は七つも不思議ネタがありません。身の回りに不思議なことがあったら、ぜひ教えて下さい。

(副運営委員長・事務局長 大木繁夫)